

支部訪問(2) 川崎・宮前支部

弘報部 黒川 鈴谷

前回 10 月に横須賀支部をお訪ねした後、第二回目は 12 月に川崎の支部を訪ねる予定でしたが年末に予定が取れず、1 月になってしまいました。新年早々の 1 月 10 日に川崎ブロック宮前支部の三枝正昭支部長さんをお願いして、支部の現状についてお話を聞かせて頂きました。以下がその記録です。(H.26.1.20)



宮前支部長 三枝正昭さん

対 談 川崎・宮前支部の活動を語る

語り手 宮前支部長 三枝正昭 (昭和 45 年卒)
聞き手 友松会広報部 黒川鈴谷 (昭和 35 年卒)

黒川 今日(きょう)は新年早々の忙しい時期にお時間を頂きまして、ありがとうございます。三枝さんとは初めてお目にかかるわけですが、弘報部のこの仕事をしているといろいろな方とお会いしてお話ができるので、それがとても楽しみです。ところで三枝さんは国大は何年の御卒業で、専攻は何ですか。

三枝 私は 45 年の卒業で、教育科です。

黒川 えーっ、それでは国大紛争の渦中に巻き込まれた学年ですね。紛争の影響でたしか卒業が 3 月ではなく、6 月頃にずれ込みましたね。

三枝 そうです。闘争の影響でそれまで仲良くやっていた同級生が三つくらいに割れてしまい、大変でした。

黒川 そうらしいですね。本当はその頃の話も伺いたいのですが、今日は本題に戻すとして、三枝さんは最後に勤務されたのは、川崎のどちらの学校でしたか。

三枝 私が最後に勤務したのは、宮前区の野川小学校です。当時は児童数が千人を超える大規模校でした。いまでも児童数はかなり多いと思います。

黒川 いま私達が話しあっている場所は東横線日吉駅の傍ですが、お住まいはこの近くなのですか。

三枝 私の住まいは港北区箕輪町ですから、この近くです。

黒川 横浜市港北区と言っても、すぐ隣は川崎市中原区ですから勤務地にも近かったですね。ところで今日の本題に入りますが、宮前支部としては年間の活動としてどのようなことをされていますか。

三枝 支部の活動としては、支部総会に一番重点を置いてやっています。総会にどれだけの人が来てくれるかが大事だと思っています。

黒川 私の支部では今年度の総会をやっと 12 月に開いたのですが、こちらでは何月頃に



川崎市全域図

開いたのですか。

三 枝 毎年8月頃から計画して、10月か11月頃に6時半から8時半くらいの予定でやっています。以前は講師をお呼びして講演会も行っていたのですが、最近はやっていません。その理由の一つは、総会の参加人数が残念ながらそれほど多くないので、それでは講師にちょっと申し訳ないのではという思いがあります。それともう一つは限られた時間なので、なるべく集まった人たちの親睦を深める時間にした方が良いでしょうという事です。ですから会場も和食のファミリーレストランを使っています。

黒 川 川崎の他の支部も、支部総会の様子はだいたい同じようですか。

三 枝 いや他の支部では、講演会をやっている所もあると思います。黒川さんの支部では講演はやってますか。

黒 川 いや、私の所でも講演はやっていません。支部総会も昨年までは土曜日の午前に総会をやり、昼過ぎから懇親会をやったのですが、そうすると現職の人は



支部総会後の懇親会

休日にわざわざ出てこなければならぬので、現職会員の出席が良くありませんでした。そこで今年は総会を金曜日の6時半開始にしたところ、現職の人の出席は去年より良かったのですが、夜になるのでOBの人が出にくくなりましたね。

三 枝 そうですね。OBの方は体調の問題もあり、夜は出たくても出にくいと言う事が有りますね。皆さん年と共に無理が利かなくなりますから。

黒 川 昔のように土曜日が半日授業で午後から空いていれば、その午後を使って総会が出来るのですがね。

昨年の10月に横須賀支部に行って話を聞いたのですが、あそこは土曜日の午後市内の小学校を会場に借りて、総会をやるそうです。小学校を会場に借りるなんて、横浜ではちょっと出来ませんね。

三 枝 そうですか。川崎でもちょっと無理でしょうね。

黒 川 別の話題に移りますが、年度の終わりに支部ごとの友松会費の納入状況の数字が、経理部から出されます。それを見て驚いたのですが、友松会全支部の中で校外会員の会費の納入状況が1位から4位までが全て川崎の支部なのです。1位が宮前支部、2位が多摩支部、3位が麻生支部、4位が中原支部でいずれも9割以上もしくは9割近い納入率です。残念ながら私の支部と比べると全然違いますね。それで、どうして校外会員の皆さんがこんなに協力的なのが、それを伺いたいのですが。

三 枝 一言で言えば、母校に対する熱い思いがあるということでしょうか。特に私より十年くらい前の先輩たちは、そう言う気持ちが強いですね。ただそういう方々はだんだんと年齢になって、会合にはなかなか参加出来ない方も増えています。でも「参加できなくてわるいなあ」と言いながらも、会費などはきちんと払ってくれます。

- 黒川 会費の徴収は、どの様にしておこなっているのですか。支部長さんがなさっているのですか。
- 三枝 いや、支部長ではなく、支部の事務局が行っています。
- 黒川 川崎ブロックの場合、支部長さんは全員 OB ですね。事務局と言うのも OB の方がやっているのですか。
- 三枝 いや、事務局は支部内の現職の校長がやってくれています。私も昔現職の頃にやりました。
- 黒川 その事務局の校長さんが連絡するのは OB の校外会員だけなのですか。校内会員はどうするのですか。
- 三枝 校内会員にも、事務局から連絡します。
- 黒川 それは会員のいる学校単位で連絡するのですか。
- 三枝 いや、校内会員にも個々に雑誌「友松」を発送しますので、それがつまり連絡になるのです。
- 黒川 成る程、「友松」には会費の振り込み用紙が付いていますからね。しかし私はちょっと不思議なのですが、前に述べたように宮前支部だけでなく川崎ブロックの各支部は校外会員の会費納入率が断トツに良いのですが、それに比べて校内会員の納入率は必ずしも良くありません。例えば宮前支部の場合、校内会員の会費納入率は校外会員の納入率の半分以下ですね。川崎の他の支部も似たような傾向です。この原因は何なのでしょう。



川崎市役所庁舎

三枝 OB の校外会員の方たちに比べて、現職である校内会員の母校に対する帰属意識が希薄になっているからではないでしょうか。川崎の場合、国大卒業生の採用数は毎年十名を切るくらい的人数しかありません。支部内の学校数は小・中合わせて二十数校ですが、そこに在籍する校内会員の数は昨年度 44 名です。つまり 1 校平均で 2 名ほどです。実際には学校によって会員数の多い少ないがありますが。ともかくこの数では、日常の仕事の中で同窓意識は育ちようがありません。

それと私達の在学中に起こった国大紛争の影響が大きいと思います。やはりあの出来事を境にして、母校に対する卒業生の感情、ひいては友松会にたいする気持もかなり変わったのではないのでしょうか。

- 黒川 確かにそれは言えるでしょうね。
- 三枝 初めにも言ったように、私などもちょうど紛争の渦中にいた世代なのですが、卒業して現場に来たら国大のいろいろな先輩に指導を受けるとともに後輩として可愛がられもしました。だから卒業した後、職場でどんな先輩に出会ったかにもよるでしょう。この個人差により、友松会に対する感情も違いが出来たと思います。
- 黒川 私自身も昔を思い起こしてみると、新卒の頃は先輩に言われるまでは会費を払わず、と言うよりはそもそも「友松会」とは何だかよく知りませんでした。しかし、

聞くところによるとそういう知らないことによる未払いでなく、十分意識して会費を払わない会員がいるようですね。そういう人は黙って払わないのではなく、未納の理由(それはたぶん友松会に対する不満なのでしょう)を、きちんと述べるべきだと思います。

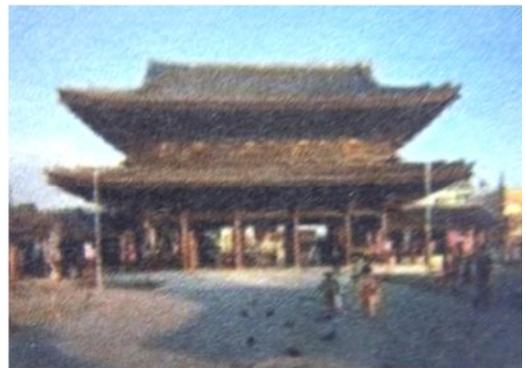
会費の問題はこのくらいにして、支部の役員のことをお聞きしたいのですが、私の所属する横浜ブロックでは、18支部の全てで現職の校長が支部長を務めています。対照的に川崎ブロックではどの支部もOBが支部長をなさっていますね。他のブロックを見ると、中・県央の両ブロックは横浜と同様に支部長は現職で、半島・湘南・西湘のサンブロックはOBと現職の混合です。

それぞれのブロックでそうなったのは理由が有ると思うのですが、川崎ではいつ頃からOBが支部長を勤めるということになったのですか。

三 枝 さあ、何時頃からは私にはちょっと分かりませんが、私が現職で事務局をやった時には、支部長はすでにOBの方でした。

黒 川 支部長さんがOBか、現職の方かいずれにしても一長一短がありますね。

三 枝 そうですね。支部長が現職では公務が忙しいから大変だろうということでOBの出番になったのでしょうか。たしかにOBの方が時間的に余裕が有るので、その点は良いのですが、別の見方をすれば今現在学校が直面している問題についての理解や現職の先生方との意志の疎通が、少し弱くなるという面はあります。それが校内会員の会費納入率に影響しているかもしれません。



川崎大師(平間寺)

黒 川 しかし横浜のように現職の管理職が支部長だと、人事異動によって他の区に転出すれば他の人に交代せざるを得ない。従って支部長が2年くらいで交代するというデメリットもあります。それどころか私の支部では一昨年はやむを得ない事情で副校長さんに支部長をお願いしました。忙しい副校長に支部長をやってもらったのは本当に気の毒でした。その点、OBが支部長なら安心ですね。

三 枝 たしかにOBが支部長なら、ある程度の期間は任せられるのですが、この場合も後を継ぐ人が見つからないと、なかなか交代できずに大変だということになります。

黒 川 そうですね。だから支部のOBの人材の層を厚くすることが大切ですね。ですから私は今年の磯子支部の総会で、参加してくれた校長さんたちに、「定年まで他の区に異動せず磯子区で職を全うし、退職後は磯子支部のOBとして活動して下さい」と冗談半分に、実は本音でお願いしました。

支部の体制の問題としてはその他に、OBになった時に最後の勤務地の支部に入るか自分の居住地の支部に入るかと言う問題もあります。先生の場合は、最後の勤務地の支部に所属されているのですね。一般的にはそういう事が多いですね。

三 枝 たしかに自分が現職で勤務していた支部の方が、馴染みが有るから良いでしょう

ね。でもだんだん年をとると、住まいに近い方が良いなとも思います。

黒川 聞くとところによると、川崎も昔は幾つもの支部に別れておらず、横須賀のように一つの支部に纏まっていたのだそうですね。それが今のように7つの支部に分かれたのはやはり政令指定都市になって区制が施行されたからですか。

三枝 さあ、その辺の詳しい経緯は良く知りません。

黒川 今でも川崎全体をまとめた「川崎友松会」と言う組織が有るそうですね。

三枝 そう言う組織はあります。会長さんもちゃんといて会合もありますよ。

黒川 その会長さんにも、一度お目にかかってお話を伺いたいものですね。その他にも川崎には多摩支部長の新田さんなどもおられますね。この方は平成4年の卒業ですから若い方ですが教職ではなくてボクシングジムを経営されているそうですね。

三枝 新田さんは若いが熱心な良い方ですよ。

黒川 そう言う方のお話も機会が有ったら是非伺いたいものですね。

いや今日は新年早々のお忙しい時期に、お話をお聞かせ頂きありがとうございます。それでは今日の対談はこれで終わらせて頂きます。